

| | |
|------------------|---|
| Title | ソ連邦国立政治文献出版所編 日本共産党中央委員会宣伝教育部訳 レーニン伝I |
| Sub Title | Владимир Ильич Ленин |
| Author | 野地, 洋行 |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1960 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.10/11 (1960. 11) ,p.892(80)- |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19601101-0081 |
| Abstract | |
| Notes | 新刊紹介 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19601101-0081 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

点は、本工と臨時工の賃金格差問題が全然と
りあげられないことにも、端的に反映されて
いる。

なお、日本における各種の賃金格差問題を
考察する場合とくに重要なことは、賃金格差
問題が、極度の低賃金（賃金水準の問題）の
うえになりたっていることである。この
点、本書でも指摘されているが、實際上
の分析では、その内容が決していきいきと抽
きだされてはいない。（労務行政研究所・A
5・四六七頁・六五〇円） —井村喜代子—

ソ連邦国立政治文献出版所編
日本共産党中央委員会宣伝教育部訳

「レーニン伝」I（全三分冊）
（“Врагмидь Иллькх Деллх”）

マルクスに関する伝記や研究が現在極めて
豊富になっているのに比べて、レーニンにつ
いてはまとまった、権威ある文献が意外に少
ない。主要なものとしては、その妻クルー
スカヤの有名な回想記や、スターリンの「レ
ーニンについて」、クララ・ツェトキンの回想、
ヤロスラフスキーの著作などの他には、トロ
ツキーや、ジノヴィエフのように後にスター
リンによって追放された人々の諸著作がある

位である。つまり、レーニンの伝記さえも、
レーニン以後の政治闘争から自由ではなかつ
た。だが、彼の死後、その生涯を客観化する
に十分な時間を経たいまは、革命家、政治家
であるばかりでなく、経済学者、哲学者でさ
えあったこの巨大な人物に関して、信頼でき
る、深くほり下げた研究がそろそろ試みられ
てもいいのではないかと思う。本書はすでに
一九四五年、モスクワで出版された「レーニ
ン伝」をレーニン生誕九〇年を記念して、充
実させた最新版の邦訳であるが、学問的研究
の意味から深くほり下げられているか否かは
別として、現在ではもっとも信頼することができ
る。できる伝記的資料であるということができよ
う。

「レーニンの本来の伝記的資料と同時に、
かれのもっとも重要な中心思想を解明するこ
とを課題」（一三頁）としているというように、
『著者集団』は単に人間レーニンの生涯を資料
的に再現するよりは、革命的指導者の理想像
たるレーニンの思想的発展と政治的活動とを
わかりやすくあつづけよう、という意図が強
いので、この伝記はレーニンの著作解説とし
ての性格ももっている。もちろん、レーニン
の思想と政治活動の発展はロシアにおける共

産党の成立と発展を集約しているもので、レ
ニンの伝記が単に個人の生涯の再現以上のも
のになることは当然であり、著者が『著者
集団』であることから予想されるように、
この伝記はあくまでも「ソ連邦国立政治文献
出版所一九六〇年版」としての性格を貫いて
いる。理想的革命家像の中に人間レーニンの
苦悩が埋没してしまっているなどというのは
いう方が無理である。ただ、ソ連邦によるこ
の種出版物の共通欠陥として、ボルシェヴィ
ズムの勝利の事実と、敗者の誤りが結論的に
述べられているだけで、その闘争の意味がほ
り下げられていない点に不満を覚える。つま
りすべての反対者は最初から克服されるべき
対象として超越的に措定されているのであ
る。

訳はよみやすいが粗雑な誤植が目につく。
第一分冊は一八七〇年から一九一〇年までを
扱い、各注はそのままレーニンの追憶文献目
録でもある。（日本共産党中央委員会出版部、
B6・三三四頁・二八〇円） —野地洋行—

野村兼太郎博士追悼